

## オクラの新品種“宮崎五角”について

河原一五郎・田村逸美・\*渡司照久 (宮崎県総合農業試験場・\*小林農業改良普及所)

KAWAHARA, I., I. TAMURA and T. WATASHI: A New Cultivar of Okra “MIYAZAKIGOKAKU”

ハウス栽培のオクラの品種は5角形の“ベターファイブ”や“南海グリーン”, 8角形の“大篠”が主に栽培されている。5角形の品種は日照不足等の条件下ではいぼ莢が発生して品質を低下させ, またいぼ莢発生が少ない“大篠”は莢色が淡く, 側枝の発生が遅いので主枝更新が困難で, 収量が低い等の欠点がある。筆者らは, 1978年に, 5角整形で莢色が濃く, いぼ莢発生が少ない品種の育成を開始し, 当初の目標に近い系統“BO62-7-1”を得て“宮崎五角”と命名したので, その育成経過と特性の概要について紹介する。

## 育成経過

1978年にいぼ莢発生は多いが, 草丈が低く, 5角形で莢色が濃い“ベターファイブ”に8角形で莢色は淡いがいぼ莢発生は極く少ない“大篠”を交配した。その後春は露地で, 秋はハウスで年2回の系統選抜を行い, 1980年に固定系統を得て, 生産力, いぼ莢発生等の特性について検討してきた。1982年度雑種第8代である。

## 特性

1) 草姿 主枝の伸長は早く, 草丈約190cm, 節数約27節で草型は両親の中間型である。葉は濃緑色で“大篠”よりやや小さく, 葉面積は大篠の約3/4, “ベターファイブ”の約1.7倍の180cm<sup>2</sup>程度である。側枝は“ベターファイブ”と同等に早くからよく発生し, 収穫始めも早い。

2) 着莢と莢の特性 主枝の第1莢は“ベターファイブ”と同様低節位から着莢し, 収穫節率も高い。莢は5角整形で莢色が濃く, 莢長10cmで莢重10g程度である。主枝及び側枝の莢とも安定して優れる。

第1表 草姿及び着莢(1982. ハウス後作)

品 種 名	草丈 <sup>1)</sup> 節数 <sup>2)</sup>		主枝収 第1着 葉 形 <sup>3)</sup>		側枝の発生					
	cm	%	葉長	葉幅	切れこみ程度	葉面積 <sup>4)</sup> 早晚 良否				
宮崎五角	191	27.2	63.2	4.7	24.4	28.4	0.87	176	早	◎
大 篠	220	31.4	52.9	6.6	27.9	31.3	0.78	552	晩	×
ベターファイブ	107	14.8	64.9	4.4	15.5	17.9	0.98	104	早	◎

注) 1)は種2月15日, 栽植距離250×10cm2条植え, 展開葉4枚残し摘葉  
主枝更新6月24日, 1)~3)は主枝更新前調査, 4)は5葉目調査

3) いぼ莢の発生 いぼ莢は全収穫期間を通じて発生し, 特に7月の発生が多く, “ベターファイブ”では収穫莢の約85%に発生し, 市場性のないものが70%以上に達するが, 本品種は2%程度である。

全期間を通じてのいぼ莢は, “ベターファイブ”では収穫莢の50%以上に発生し, しかも市場性のないものが35%

第2表 いぼ莢の発生と収量・品質(1982. ハウス後作)(株当り)

品 種 名	総収量		A品収量		いぼ莢発生率					
	個数	比	個数	比	A品率	少	中	多	計	指数
宮崎五角	個	%	個	%	%	%	%	%	%	%
	31.9	129	30.6	251	95.9	7.8	0.8	0.3	8.7	3.2
大 篠	16.4	66	13.2	108	80.5	0.5	0	0	0.5	0.2
ベターファイブ	24.7	100	12.2	100	49.4	17.4	11.1	24.1	52.6	37.3

注) 収穫期7月31日まで, 指数 =  $\frac{N_1 + 2N_2 + 3N_3}{\text{調査個数} \times 3} \times 100$  (Nは発生程度別個数)

にも達する。これに対して, 本品種の商品性に影響するいぼ莢は1%程度で, 発生程度も極めて軽く, 発生率が低い。

4) 生産性 初期収量は“ベターファイブ”と同等に高く, 各時期別の収量も安定して高い。A品率はいぼ莢発生に大きく左右され, いぼ莢発生が多い“ベターファイブ”は6月以後低いA品率で推移しているが, 本品種は各時期とも安定して高い。

第3表 時期別収量と品質(1982. ハウス後作) (株当り)

品 種 名	4 月		5 月		6 月		7 月	
	個数	A品率	個数	A品率	個数	A品率	個数	A品率
宮崎五角	個	%	個	%	個	%	個	%
	1.9	82.8	6.0	95.0	14.0	97.4	8.8	96.5
大 篠	1.3	20.0	6.7	81.2	8.3	90.6	0.2	75.0
ベターファイブ	1.7	88.2	6.0	74.2	8.9	50.6	8.1	21.0

総収量は“ベターファイブ”に対して30%程度増収する。A品率はいぼ莢発生が多い“ベターファイブ”は約50%であるが, 本品種は約95%で極めて高く, A品収量は“ベターファイブ”の約2.5倍である。

第4表 いぼ莢の発生と収量・品質(1982. ハウス後作) (株当り)

品 種 名	総収量		A品収量		いぼ莢発生率					
	個数	比	個数	比	A品率	少	中	多	計	指数
宮崎五角	個	%	個	%	%	%	%	%	%	%
	31.9	129	30.6	251	95.9	7.8	0.8	0.3	8.7	3.2
大 篠	16.4	66	13.2	108	80.5	0.5	0	0	0.5	0.2
ベターファイブ	24.7	100	12.2	100	49.4	17.4	11.1	24.1	52.6	37.3

注) 収穫期7月31日まで, 指数 =  $\frac{N_1 + 2N_2 + 3N_3}{\text{調査個数} \times 3} \times 100$  (Nは発生程度別個数)

## 3. 適応作型と栽培上の注意

県内のハウス栽培, 露地栽培のいずれにも適応できるが, 生育最低気温18℃が必要である。栽培法は従来品種と同様でよい。